

**研究主題 「自己の生き方についての考えを深め  
よりよく生きようとする児童の育成」  
～「考え、議論する」道徳科の授業を通して～**

草加市立小山小学校

### 1 研究主題の設定理由

新学習指導要領では、発達段階に応じて、一人一人の子どもが道徳的な課題を自分自身の問題として捉え向き合う、「考え、議論する道徳」への転換が意図されている。

本校では、「特別の教科 道徳」が実施となった一昨年度から道徳科の指導法の研究に取り組んできた。道徳ノートの活用や評価について共通理解、全クラスの教室内と校舎内への「道徳コーナー」の設置、授業で使用する場面絵等の資料の整備等に取り組んだ。さらに昨年度は、講師を招聘して「道徳指導法研修会」や「道徳授業研究会」を行い、自己の生き方についての考えや自己への問いかけを深める道徳授業の実現を目指して研究を行ってきた。

昨年度までの実践を継続・改善しながら、研究主題「自己の生き方についての考えを深め よりよく生きようとする児童の育成」に迫ることとした。

### 2 研究の仮説

- (1) 本質をえぐり出すような発問をすることによって、自己の生き方についての考えを深めることができるであろう。
- (2) 理由について話し合うことを大切にすることによって、ねらいとする道徳的価値に迫ることができ、よりよく生きようとする児童の育成につながるであろう。

### 3 研究の経過

月	研修の種類	研修の内容
4	①研究推進委員会 ②全体研修 ③ブロック研修 ④ブロック研修	○研修計画策定 ○道徳授業の進め方について共通理解 ○指導案検討 ○道徳資料箱整備 ○指導案検討
6	⑤全体研修 ⑥ブロック研修 ⑦全体研修	○道徳指導法研修会 ○指導案検討 ○第1回道徳授業研究会

7	⑧ブロック研修 ⑨全体研修 ⑩ブロック研修 ⑪全体研修 ⑫ブロック研修	○指導案検討 ○第2回道徳授業研究会 ○指導案検討 ○第3回道徳授業研究会 ○指導案検討
8	⑬ブロック研修	○指導案検討
9	⑭全体研修 ⑮全体研修	○第4回道徳授業研究会 ○第5回道徳授業研究会
10	⑯全体研修	○第6回道徳授業研究会
11	⑰全体研修 ⑱全体研修	○成果と課題について検討 ○研究発表会
1	⑲研究推進委員会	○次年度学校課題研修、研修計画検討
2	⑳研究推進委員会 ㉑全体研修	○研究のまとめ ○次年度学校課題研修、研修計画検討

#### 4 研究の内容

##### (1) 「考え、議論する」道徳科への授業改善

道徳科の授業の要件を「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習」ととらえ、「2分法」「本質的な問い」のある授業づくりに取り組んだ。

##### ① 授業法の共通理解

- ・ 年度当初、昨年度実践した研究授業の動画を視聴しながら、道徳科の授業法について共通理解を図った。
- ・ 学校再開後、指導者を招いて、「道徳指導法研修会」を実施した。



##### ② 計画的な授業研究会の実施

「彩の国の道徳」の活用も含め、年度当初に、年間6回の授業研究会と、それに伴う事前授業の実施について計画を策定し、見通しをもって研究に取り組める体制を整えた。

##### ③ 実際の授業展開

- ・ 導入時では、児童の実態をもとに、短い時間で、条件・状況、学習課題を確認し、登場人物を通して自分自身のこととして考えられるようにする。






- 展開時では、中心発問で心の葛藤する内容を二つに分けて教師の発問を工夫することで授業の山場を充実させる（2分する）。特に、児童同士が本音で本気で話し合えるよう心を揺さぶる発問をし、道徳的な多様な考えを引き出し、交流させ、吟味する。

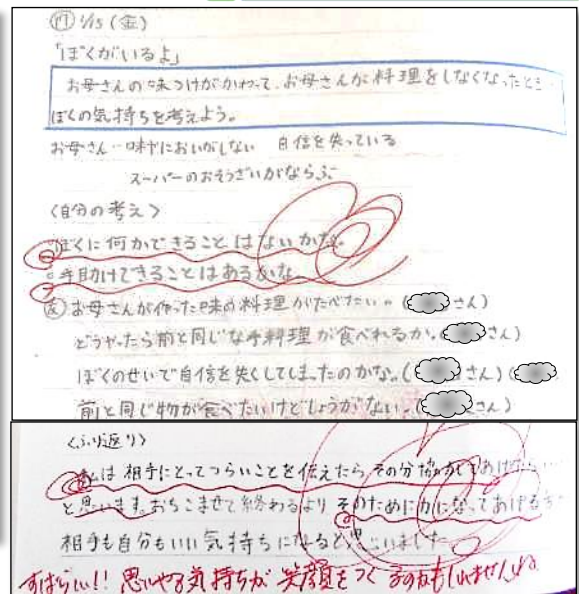
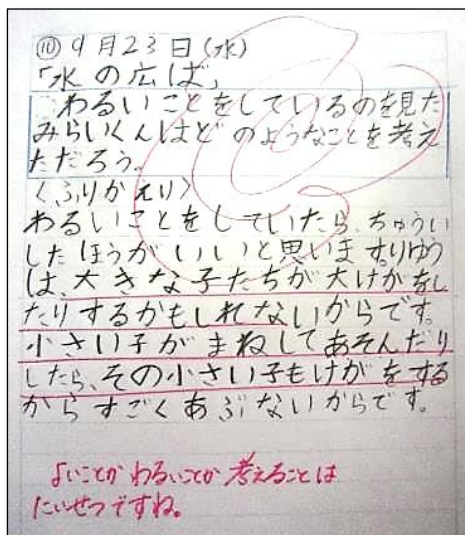
- 終末時では、教師の説話等を入れ、児童に「考えたこと」や「気づいたこと」を自由に書かせることで自分の考えの深まりや広がりを振り返らせる。

### (2) 道徳ノートの工夫

- ノートの使い方は、全学年共通化を図る。
- 授業の振り返りで、児童が「考えたこと」や「気づいたこと」を自由に記述する。書く活動を取り入れ、児童の思考をより深める。学期末には保護者とも共有している。

～「2分法」「本質的な問い」のある授業を目指して～

<b>導入</b>	① 問題意識を高める ＊道徳的価値への方向付けを行う。 ＊教材への興味関心を高める。	
<b>展開</b>	② 板書(授業回数・日付・教材名)する ③ 条件・情報を伝え、課題を提示する ④ 教材を読む(考えるポイントを伝える) ⑤ 第1発問をする → 中心発問へつなげるための土台づくり ＊登場人物を通して自分自身のこととして考える。 ＊主人公に託して自分のことが書けるような場の雰囲気をつくる。 ⑥ 中心発問をする ⑦ 2分する ＊授業の山場を充実させるため、中心発問で2分する。 ⑧ 個人で考え、理由を発表させる ⑨ 理由を4つずつ板書する ⑩ 理由について、ペアや小グループで考えを交流させる	  
	⑪ 吟味する (本質的な問い・心をゆさぶる発問) ＊授業の山場をつくる。 ＊話合いの構想を立てる。 ＊本質をえぐり出すような発問をする。 ＊児童同士、教師と児童が本音で本気で話し合う。(対話) ＊道徳的な多様な考えを、「引き出す」「交流する」「吟味する」。 ＊自分の考えを再構成する。 ＊道徳的価値観を高める。	
<b>終末</b>	⑫ 説話をする ⑬ 振り返らせる ＊価値についてまとめたり、押し付けたりしないで、児童が「考えたこと」や「気づいたこと」を自由に書かせる。	



### (3) 道徳資料ボックスの整備

- 場面絵や教材教具を活用し、いつでも教材研究や授業準備ができるように、道徳資料ボックスを作成した。
- 背表紙には「教材番号」「教材名」「内容項目」を記載し、中には、場面絵、短冊、板書計画を整備した。
- 「彩の国の道徳」についても、同じように資料を作成した。



#### (4) 道徳コーナーの整備

全教室、同じ場所に道徳コーナーを設置し、授業を振り返られるものや児童同士が様々な価値に触れられるもの、保護者や地域の方に本校の道徳教育の取組が伝わるものを掲示した。また、廊下にも道徳コーナーを設け、学校生活の中で児童に意識してほしいこと、ペア学級での活動の様子や行事等で見られたうれしい姿を掲示した。



【低学年教室】



【高学年教室】



### 5 研究の成果と課題

#### (1) 成果

- 小山小学校の道徳科の授業スタイルができ、共通理解のもと研究を進めることにより、どの学級でも同じ流れで授業を行うことができた。
- 全担任が道徳科の指導案を作成し、研究・公開授業を行ったことにより、授業力向上につながった。
- 「児童同士」「教師と児童」が本音で本気で話し合う授業や、物事を多面的・多角的に考える学習を実践したことにより、他教科でも自分の考えを自分の言葉で伝えられる児童が増えた。
- 「考えたことを自由に書く」という振り返りを毎時間取り入れたことにより、児童の考えが深まり、自分の考えや思いを文章で表現できる児童が増えた。
- 2～6年生の「規律ある態度」達成目標アンケートでは、学校全体として、12項目全てで「よくできる」「だいたいできる」と回答した割合が80%以上で、5項目で90%を超えた。

#### (2) 課題

- 小山小学校の道徳科の授業スタイルを定着させ、道徳教育を一層推進する。
- 「第1発問」や「2分する場面・どう2分するか」、「授業の山場」等について、さらに研究を深める。
- 道徳科の授業の指導と関連した評価について研究を深める。
- 学校における道徳教育に関する家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を一層深める。